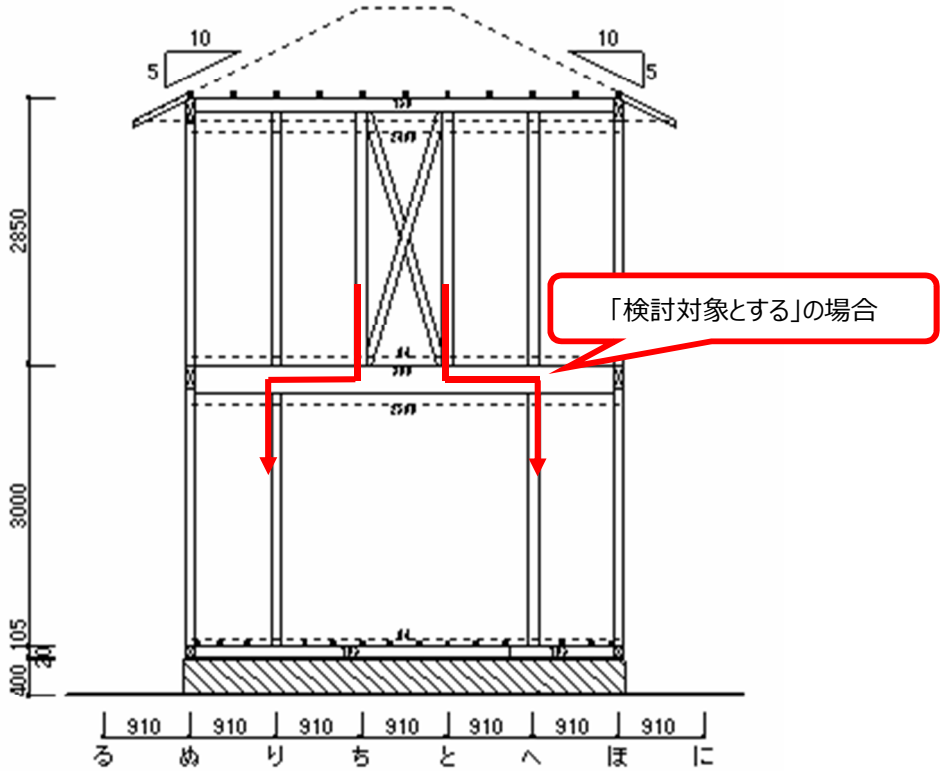
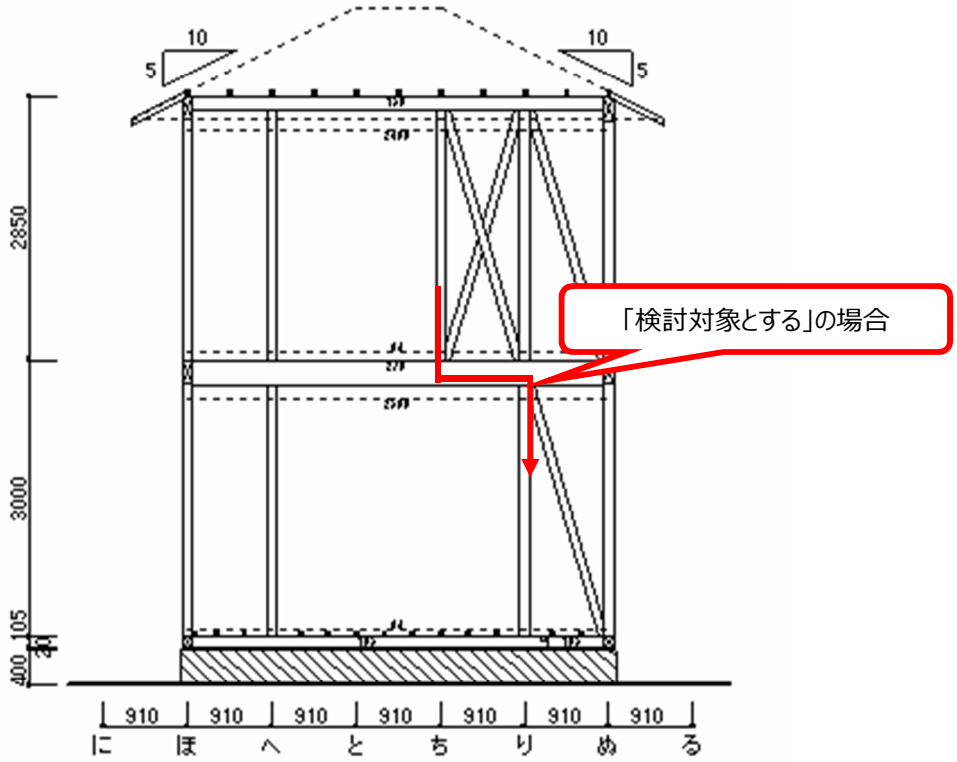
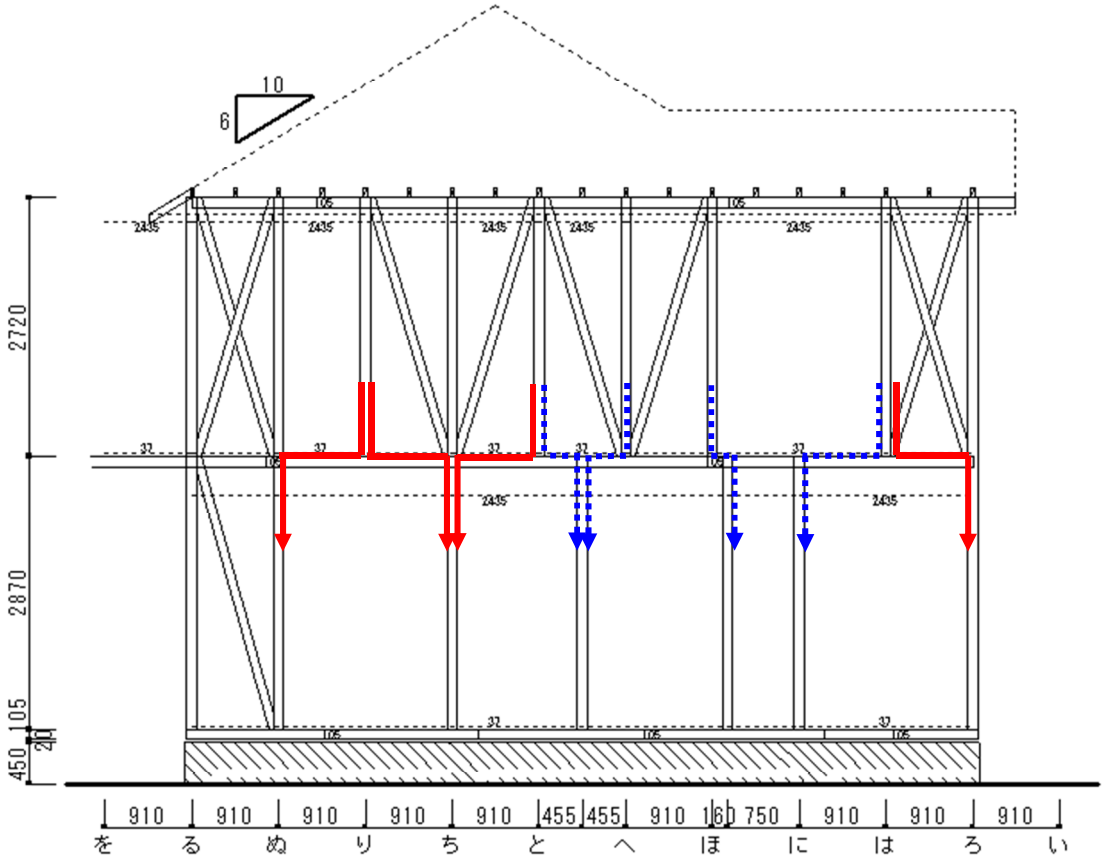
１m範囲にある柱の直上に柱がある場合の検討について





１m範囲にある柱の直上に柱がある場合の検討と、上下の軸組がずれている場合の違い



“１m範囲にある柱の直上に柱がある場合”で「検討対象とする」を設定した場合

２階柱の直下に引抜き力を伝達する柱がない場合、１m以内でかつ、
２階柱と軸組がずれていない１階柱に引抜き力を伝達します。
（距離の比は考慮していません。）

上下の軸組がずれている場合

※分配処理の実行に関わらず、標準で計算しています。
２階柱の直下に引抜き力を伝達する柱がない場合は、１m以内の
１階柱を軸組が一致しているものとみなし引抜き力を伝達します。
（距離の比は考慮していません。）

※１階柱に耐力壁が取り付いていない場合でも、引抜き力を伝達し接合部の仕様を計算しています。

N 値計算シートでの表示方法

N値計算シートを確認して頂きますと、２通りの壁仕様（１階と１階’）を表記しています。

ろ	9	×	○	1階	X方向
					Y方向
		×	○	1階’	X方向
					Y方向
			○	2階	X方向
					Y方向

壁仕様（１階と１階’）の結果を比較して接合部の仕様を決定しています。

3.00	15.88	(ち)	柱脚	(ち)20kN用引き寄せ金物
3.00	15.88	(ち)	柱頭	-
1.50	7.94	(ほ)	柱脚	(ち)20kN用引き寄せ金物
2.25	11.91	(と)	柱頭	-
3.60	19.05	(ち)	柱脚	-
1.60	8.47	(ほ)	柱頭	(ち)20kN用引き寄せ金物

１階

１階’